

年 組

番 氏名

目標

「枕草子」(第一段)の現代語訳を確認し、内容を理解しよう。

◎現代語訳を確認しよう。

- ー線部の現代語訳を書き込もう。
- ○の現代語訳を書き込もう。
- ◀には、助詞を補おう。
- ▶に省略されている古語を補おう。

春

春はあけぼの。 やうやう

明け方(をかし)だんだんと

(空の部分)

白くなつていく 山ぎわが 白くなりゆく山ぎは、すこ

明るくなって 紫がかつた

しあかりて、紫だちたる雲

が

たなびいている

のほそくたなびきたる。

(のは風情がある)

(をかし)



年 組

番 氏名

◎現代語訳を確認しよう。

夏

言うま

夏は夜。月のころはさら

でもないが

やはり

が

なり、闇もなほ、**虫の**多く

飛びかっている (のがよい) ほんの

飛びちがひたる。また、た

一、二匹

だ一つ二つなど、ほのかに

光って飛んでいくの 趣がある

うち光りて行くもをかし。

が の いい

雨など降るもをかし。

年

組

番

氏名

◎現代語訳を確認しよう。

秋

秋は夕暮れ。夕日のさし

(山の部分)はにとても ちか 近くなった頃に

て山の端いと近うなりたる

からすが ねぐら 行くという

に、鳥の寝どころへ行くと

ので

て、三つ四つ、二つ三つな

飛び急ぐことまでも

しみじみとしたも

ど、飛びいそぐさへあはれ

のを感じさせる

まして

かり

が 列を作つ

なり。まいて雁などのつら

ている

の

大変

ねたるが、いと小さく見ゆ

の にとても おもしろい

が すっかり沈

るはいとをかし。日入り果

んでしまった

てて、風の音、虫の音など

これもまた、 言いようもない

(ほど)趣が深い

はた言ふべきにあらず。



年

組

番

氏名

◎現代語訳を確認しよう。

冬

早朝

冬はつとめて。

雪の降り

言っまでもない

たるは言ふべきにもあらず、

霜のが真っ白なのも

そうでな

霜のいと白きも、またさら

くてもたいそう寒いときに

を

でもいと寒きに、火などい

を持って通つてい

そぎおこして、炭もて渡る

くのも大変似つかわしい

もいとつきづきし。昼にな

寒さがだんだん緩んでいくと

りて、ぬるくゆるびもてい

ばかり

けば、火桶をけの火も白き灰が

好ましくない

ちになりてわるし。

